

第 1 回～第 2 回審議会での主な意見への対応案

1 総合計画の体系、総合計画の展開方法 など

- (1) 「都市像—基本目標—戦略テーマ」という「つくり」自体が分かりにくい。
- (2) 6 つの基本目標は、①一定の経済的な豊かさを実現する（観光を中心に取り組むなど）、②環境問題に取り組む（世界的水準を目指す）、③福祉や教育などの取組を進める、という 3 つに分けられるのではないか。
- (3) 戦略テーマ、戦略プロジェクトの体系図での位置づけを検討したらどうか。
・例えば、基本計画の最初の部分に位置付ける等、「基本目標」と「戦略テーマ」の関連を分かりやすく整理してはどうか
- (4) 「信頼・協働政策」の位置づけは再度検討したほうがよい。（他と並列なのか？等）
- (5) 総合計画をどういう意図で使っていくのか？という部分を押えながら議論する必要がある。 など

→「総合計画の体系図」の説明及び見直しを検討・・・P2～P6

2 「都市像」や将来のイメージ など

- (1) 将来（都市像）を考える際のポイントは、「(市民として)住むまち鹿児島市をどうするか」、「外部から見て鹿児島市にどのようにあってほしいか」の 2 つではないか。
- (2) 「都市像」については、訪れた人が鹿児島市に感じるもの、そこに住む市民も感じるものではないか。（スウェーデンやシンガポールの「国家像」のイメージ）
- (3) 「こういうことをしたらこういうまちが実現します」ということを市民がイメージできるようなものが必要。
- (4) 「都市像」は理念であるが、どういうまちをつくっていくかという一番大事なところをまず考えていくことが大切。（「都市像」の核となる視点や基本目標との関連を含めて） など

→「都市像」の核となる視点、「都市像」、「基本目標」の関連イメージの説明・・・P7
→(3)については、基本計画の中で複数の「目標指標」を示すことで対応することを検討・・・P3

3 「基本目標」に優先順位をつける など

- (1) 6 つの基本目標が掲げられているが、この中での優先順位はないのか。
- (2) 10 年後、鹿児島市としてはこれを目指す、という徹底して取り組むものを 1 つ掲げるべきではないか。
- (3) 財政制約も踏まえながら優先順位を付し、特に取り組む部分を分かりやすく示すことが必要。 など

→下記の「考え方の整理」のとおり

考え方の整理

➤ 6 つの基本目標は、“ビジョン”としての「都市像」を実現するため、取り組むべき分野（企業で言えばビジネス内容や事業領域）と、それぞれの分野で目指すべき方向性を示すものである。

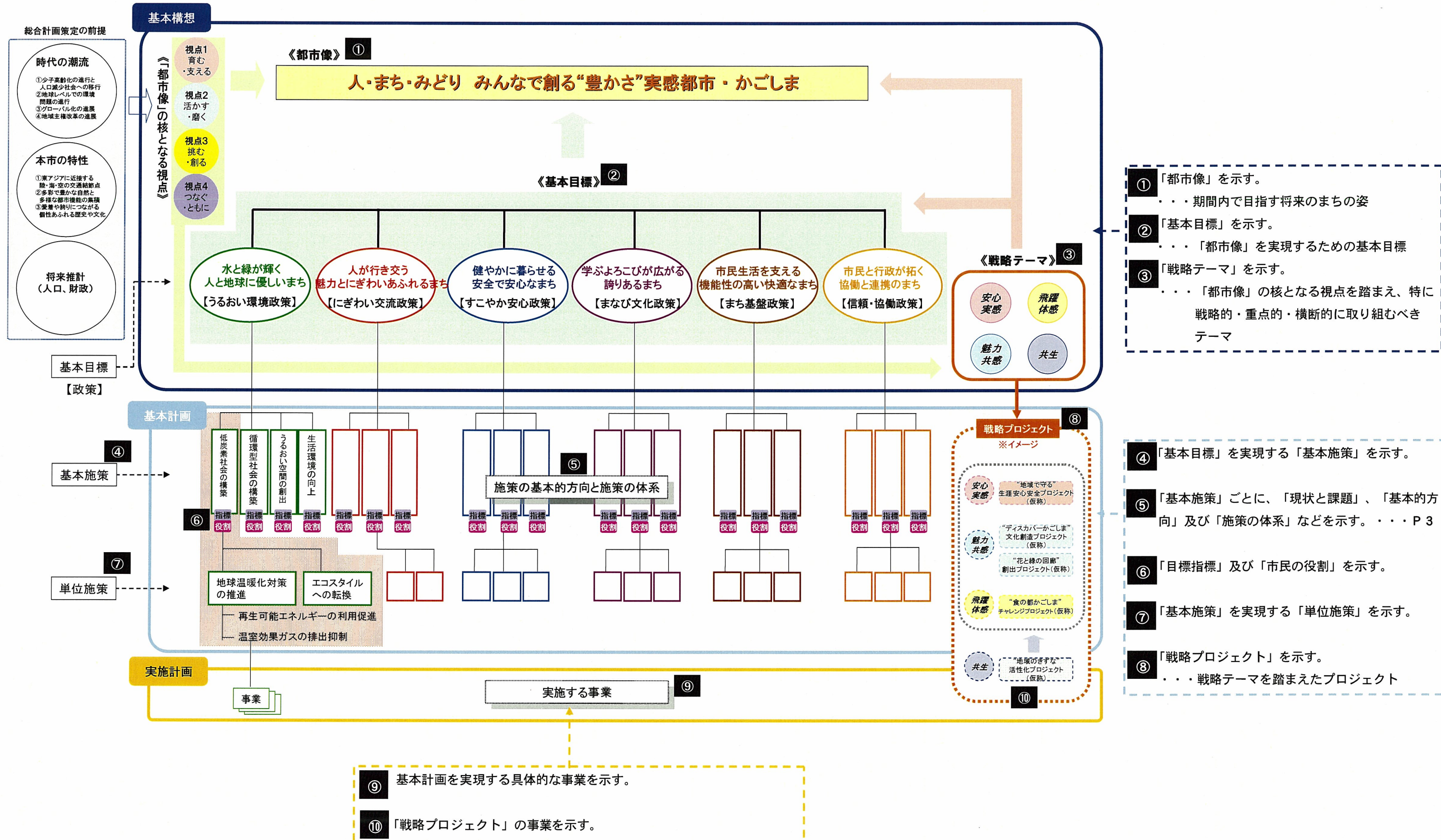
➤ これら 6 つは、市が実施する施策・事業のベースとなるものであることから、優先順位を付すものではなく、取組分野として並列の取扱いとなるものである。

➤ 3 年間で実施する事業を掲げる実施計画や毎年度の予算など、事業レベルにおいては、即応性が求められる短期的な課題や、財政制約などを踏まえながら選択と集中による、効率的な行財政運営を図っていく。

➤ 基本構想及び基本計画レベルにおいて、「この 10 年で特に」という部分については、戦略的・重点的・横断的に取り組むべきテーマを掲げ、それを実現していくためのプロジェクトを推進することにより対応する考えである。

※「戦略プロジェクト」では、各テーマの推進に向け、各基本目標でカバーする分野を超えて、重点的かつ横断的に取り組む施策、事業群をまとめたものをプロジェクトとして掲げ、基本計画の前期 5 年間における実施スケジュールも明らかにする中で戦略的に推進していく。

総合計画の体系図 補足資料



1 低炭素社会の構築

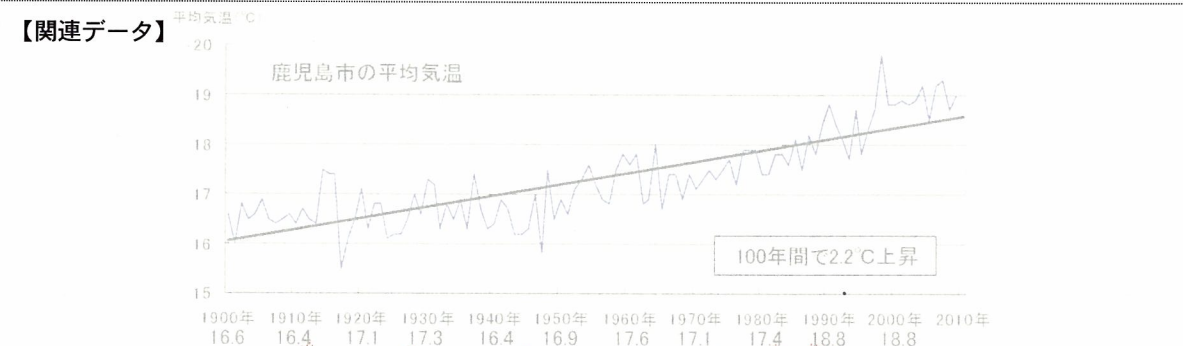
基本施策

～温室効果ガスの排出量を削減し、持続可能な社会を築きます！～

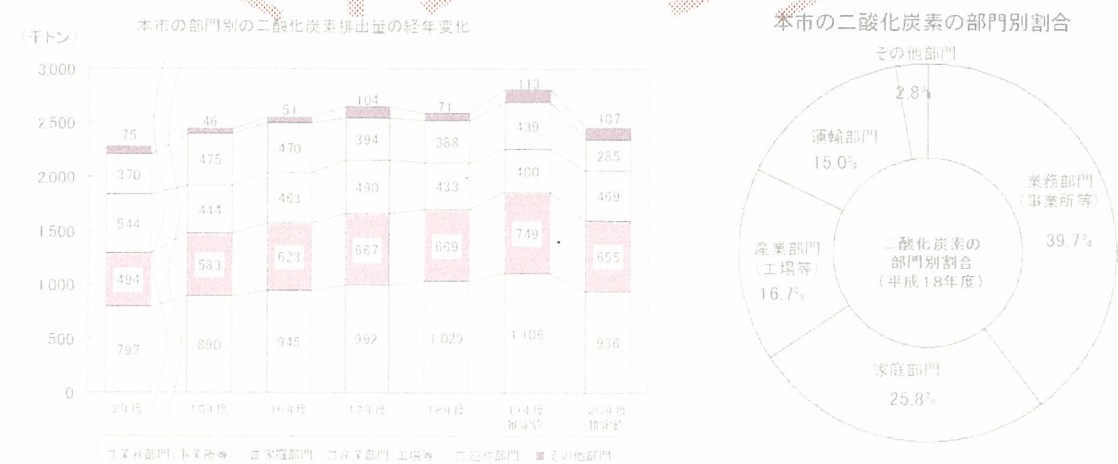
現状と課題

I 地球温暖化の急速な進行は、世界的な異常気象や自然災害の増加などをもたらすことが指摘されています。本市においても地球温暖化の主な原因とされる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量の削減目標を掲げ、取組みを進めてきていますが、目標達成は厳しい状況にあります。温室効果ガスの排出を大幅に削減した低炭素社会の実現に向け、より積極的な温暖化対策を進めていく必要があります。

II 本市の二酸化炭素排出量は事業所や家庭からの割合が高いことから、市民・事業者・行政が連携を図りながら、より一層環境にやさしい取組みを進め、温室効果ガス排出量を削減していく必要があります。



【資料】：気象統計情報（気象庁）



基本的方向

I 二酸化炭素の発生源となる石油・石炭など化石燃料の使用を減らすため、太陽光など自然を利用したエネルギーの利用促進や省エネルギーの普及促進を図ります。

II 環境教育・環境学習の充実や環境情報の提供などにより、環境に配慮したライフスタイル及びビジネススタイルへの転換を促し、特に事業所や家庭における温室効果ガスの排出削減を図ります。

施策の体系

低炭素社会の構築

I	地球温暖化対策の推進
単位施策	
II	エコスタイルへの転換
単位施策	

基本施策

「◆」は「主な取組」

【様式5】

再生可能エネルギーの利用促進
◆太陽エネルギー等の再生可能エネルギーの利用促進
温室効果ガスの排出抑制
◆省エネルギー技術の普及促進
環境教育・環境学習の推進
◆かごしま環境未来館を中心とした環境学習の推進
低炭素ライフスタイルの実践
◆〇〇〇との連携
低炭素ビジネススタイルの実践
◆事業所等への〇〇〇の実施

実施する事業（例示）

目標指標

このようなまちを目指します！

現況	目標 (平成28年度)	算出方法等
「地球温暖化対策が進んでいる」と思う市民の割合	%	企画が実施するアンケート調査による

主な指標

市域内の温室効果ガス排出量の削減率（平成2年度比）	〇〇%	→	〇〇%	〇〇〇〇
太陽光発電システム設置累計	〇〇件	→	〇〇件	〇〇〇〇
環境管理事業所の認定事業所数	〇〇箇所	→	〇〇箇所	〇〇〇〇

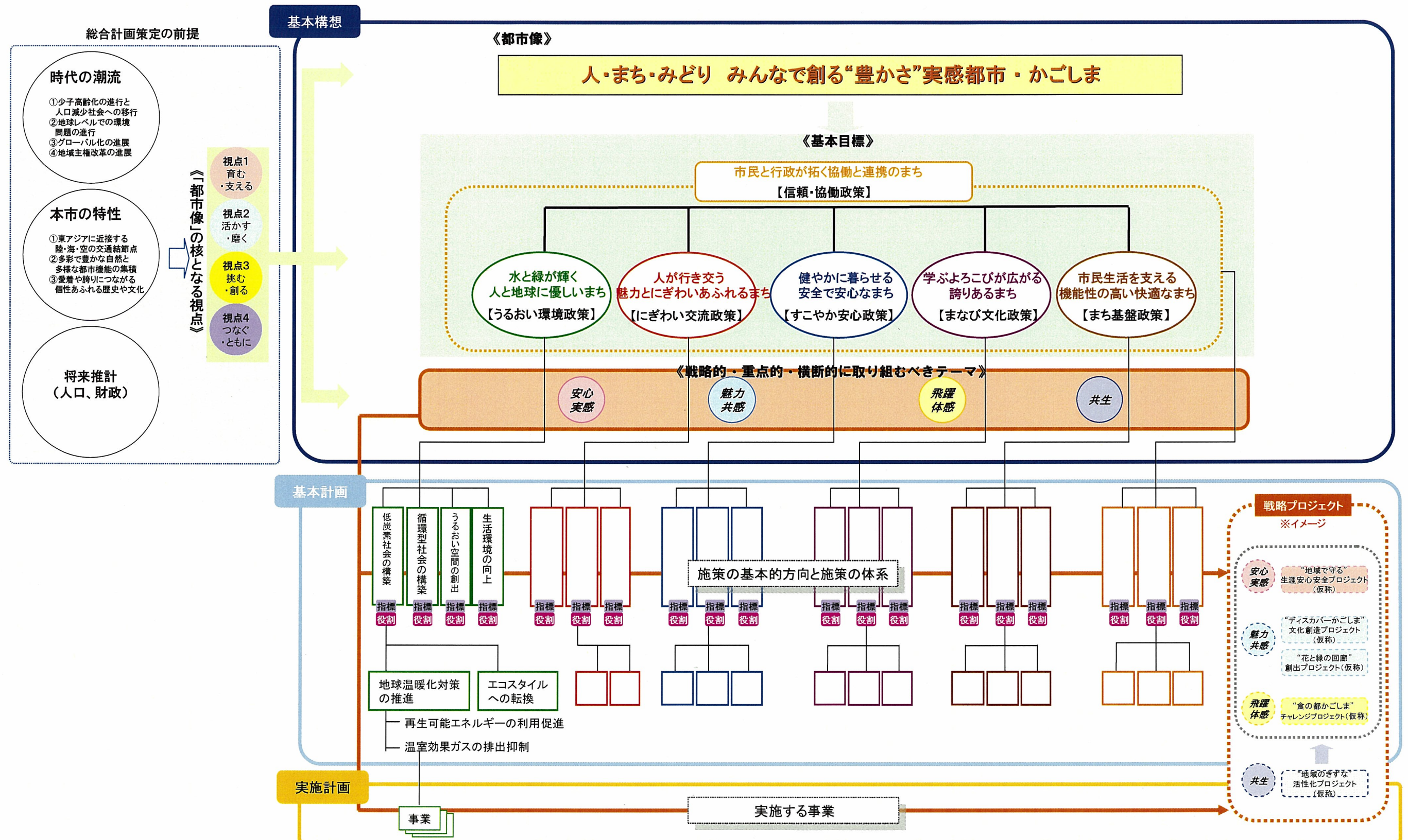
市民みんな

市民	◇地球温暖化に関心を持ち、省エネ・創エネ※に取り組ましましょう。 ◇環境に関する学習会やイベントなどに積極的に参加しましょう。
地域・NPO等	◇行政や他の団体と連携しながら、専門性や知識などを生かし、地球温暖化対策を推進しましょう。
事業者	◇環境マネジメントシステム※の導入など環境に配慮した事業活動に取り組ましましょう。

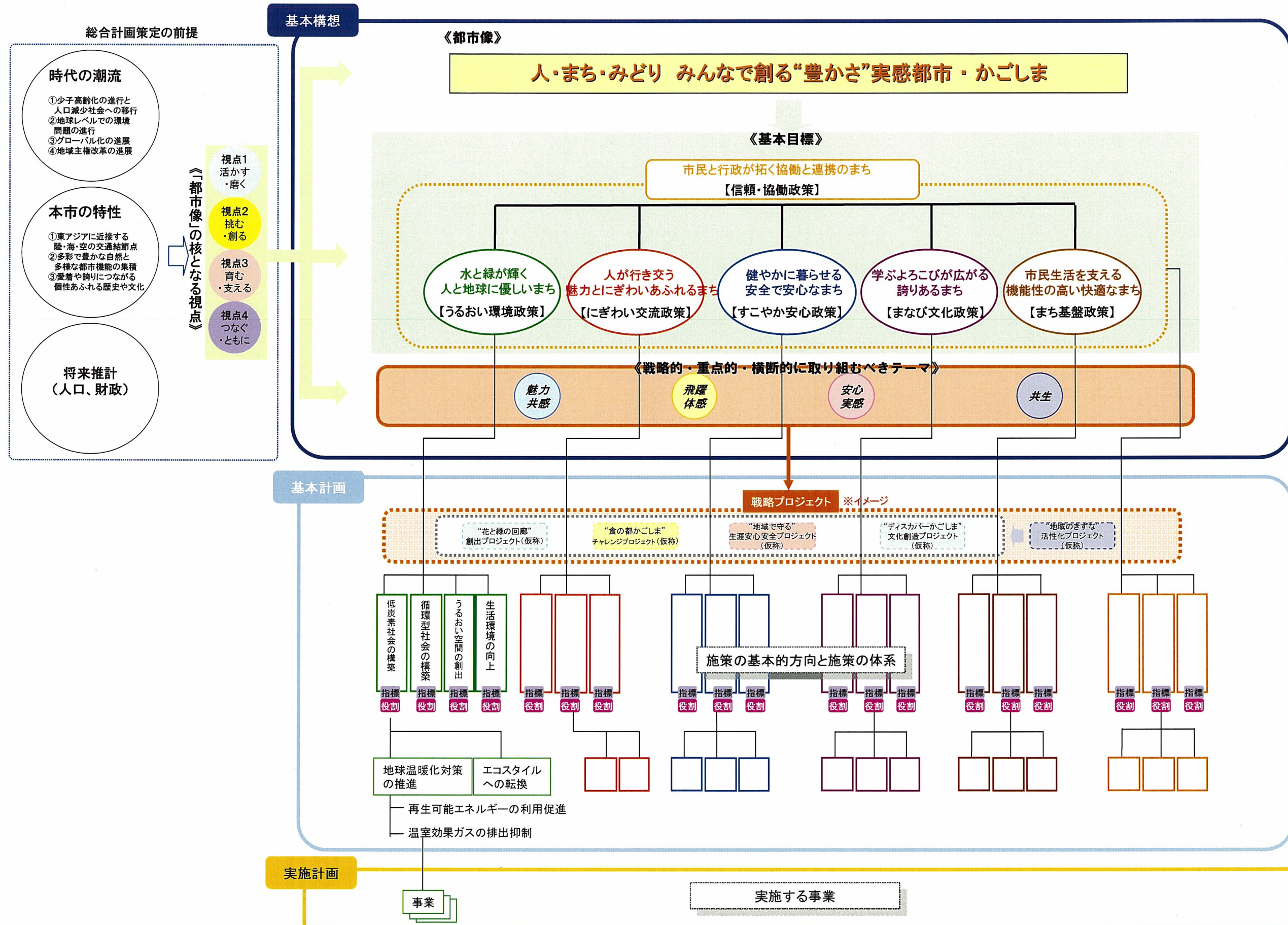
※創エネ…太陽光発電システムや家庭用燃料電池（エネファーム）などを利用してエネルギーを作り出すこと。

※環境マネジメントシステム…組織が自ら環境方針を設定し、計画の立案（Plan）、実施・運用（Do）、点検・是正（Check）、見直し（Action）という一連の行為により、環境負荷の低減を継続的に実施していく仕組み。

【変更案①】



【変更案②】

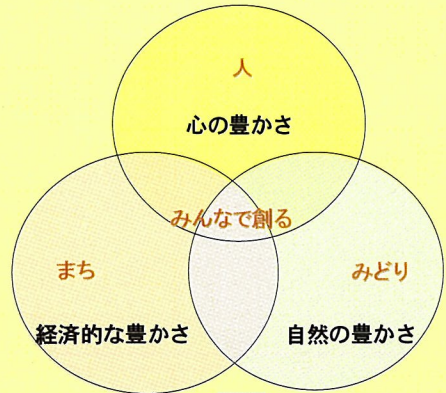


【変更案③】

基本構想

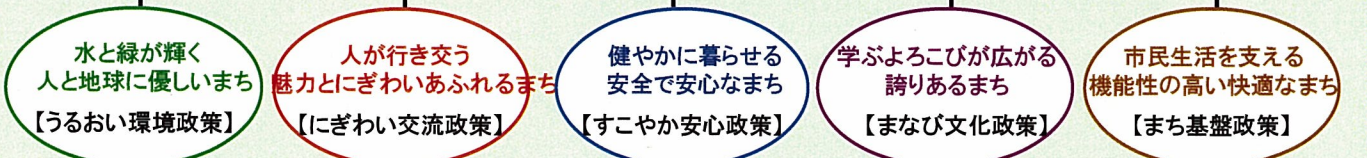
《都市像》

人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま



《基本目標》

市民と行政が拓く協働と連携のまち
【信頼・協働政策】

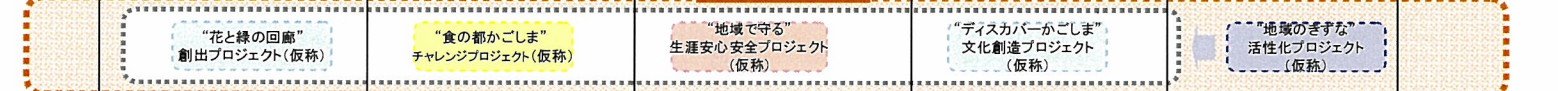


《戦略的・重点的・横断的に取り組むべきテーマ》

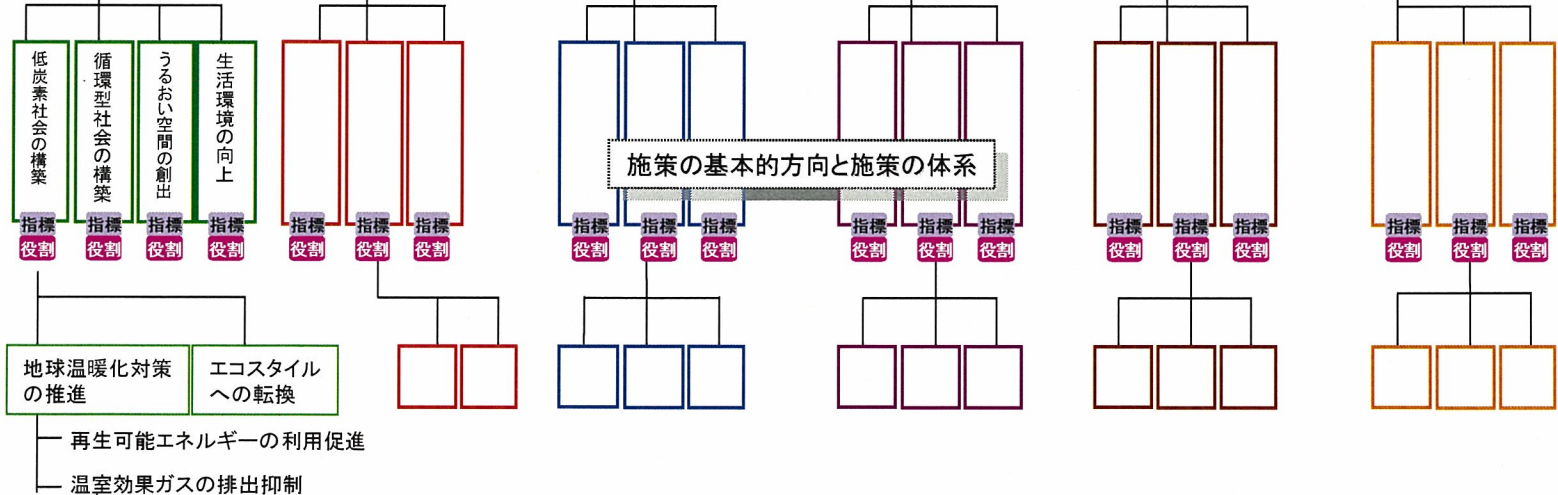


基本計画

戦略プロジェクト ※イメージ



施策の基本的方向と施策の体系



実施計画

事業

実施する事業

総合計画策定の前提

時代の潮流

- ①少子高齢化の進行と人口減少社会への移行
- ②地球レベルでの環境問題の進行
- ③グローバル化の進展
- ④地域主権改革の進展

本市の特性

- ①東アジアに近接する陸・海・空の交通結節点
- ②多彩で豊かな自然と多様な都市機能の集積
- ③愛着や誇りにつながる個性あふれる歴史や文化

将来推計
(人口、財政)

《都市像》の核となる視点

- 視点1 活かす・磨く
- 視点2 挑む・創る
- 視点3 育む・支える
- 視点4 つなぐ・ともに

「都市像」の核となる視点、「都市像」、「基本目標」の関連イメージ

